

# 袋井駅前代替駐輪場に雨よけ施設を！ 学校等教育施設修繕費の予算確保を！



—袋井市議会 6 月定例会 高橋美博議員の一般質問—

私は議員となって 20 年目。この間、年 4 回の市議会定例会で必ず一般質問に取り組み数えて 80 回となりました。

これからも初心を忘れず頑張ります 高橋美博

## 袋井駅前代替駐輪場の運営改善を

袋井駅前市有地に商工会議所事務所・ホテルが入る複合施設を建設中で完成する来年 3 月末までの間、市営駐輪場が使えず、どまんなか袋井まちづくり(株)が代替駐輪場を確保し運営している。

問 代替駐輪場の利用実態・動向把握をすべきでは。

答 袋井駅北側駐輪場の改修や南側駐輪場整備の基礎数値とするため、平成 27 年度に駐輪場需要検討業務を実施するとともに、昨年 8 月下旬から 9 月末にかけて 1 日のうちで駐輪台数がピークとなる午前 10 時から 11 時にかけて、駐輪台数の調査を実施した。その結果に基づき、袋井駅北側には 600 台、南側には 400 台規模の駐輪場を整備するとした。改めて動向調査が必要とは考えていない。



問 利用者から代替駐輪場に雨カッパ等の着脱ができる雨よけ施設を求める声が寄せられているがどうか。

答 市からどまんなか(株)に対して、敷地の一部に雨天時のカッパの着替えができるスペースの設置を強く要望しており、現在、地権者への説明を含め、設置に向けて準備をしている。

問 バイク等の利用者から屋根付き預かり所の斡旋を求める声もあるが市の対応はどうか。

答 袋井駅前には 1 カ所のみで斡旋は難しいことから、市としては愛野駅南北駐輪場を案内している。

## 中東遠総合医療センターの市民利用減の理由は

開院以来、入院外来ともに年々袋井市民の利用が減少している。、市としても要因の分析と対策に取り組むことを求めた。

問 患者に占める袋井市民の構成比は、平成 25 年度は 26.9% だった。それが、平成 30 年度は入院が 24.5%、外来が 22.1% と大きく減少している。原田市長はどのようにとらえているか。

答 利用者数における袋井市民の割合は低下しているものの中東遠総合医療センターは、地域の医療機関の連携の中で、高度急性期・急性期医療についての基幹的役割を果たすことで、袋井市民の医療を支えている。連携を深めていく中で、地域全体として医療機関が適切に利用されるよう働きかけていくことが中東遠総合医療センターの機能を最大限発揮していく上で重要だと考えている。



問 要因には磐周医師会の紹介数が少ないこと、道路整備がすすまないことや自主運行バスからデマンド型タクシーに代わるなど公共交通の後退など市民の利便性が改善されないことにある。どう取り組むのか。

答 中東遠総合医療センター、磐田市立総合病院、聖隷

袋井市民病院及び開業医など医療機関の連携により、機能分担が効率的に進み、必要な方に適正な治療を提供する体制が整いつつあることが、中東遠総合医療センター利用者数の中で袋井市民の割合が低下している要因の一つであると判断している。

問 掛川市と袋井市の負担金の割合は概ね 6 対 4 となっている。しかし患者の構成比でみれば 7 対 3 であり、袋井市が過分の負担をしていることになる。負担割合の見直しについて協議すべきではないか。

答 運営に必要な経費の負担割合は人口割、均等割、距離割、利用者割の要素で算定している。これは、基本的には両市民の有病率は同様と考えた上で、患者数は人口に比例するという考え方を基本に負担割合を決定したものである。公立病院はその経費の一部が地方交付税で措置されていることから、どこの自治体からの患者であっても公平に対等に受け入れることがその設立の使命であると考えている。

## エアコン設置等による施設修繕費への影響は

今年度 12.1 億円をかけて全小中学校普通教室・幼稚園保育室にエアコンを設置、その電気代として 3200 万円が計上された。しかし、関係者から施設修繕費等の予算がカットされ事業が滞っているとの声もある。実態について質した。

問 今年度予算算定の上で、エアコン整備等大きな事業実施のために先送り等の影響はでていないか。

答 修繕箇所を先送りすることのないよう予算を確保し、必要な修繕を計画的に進めている。

問 予算の要求取りまとめ、計上までの手順はどうか。

答 前年の 9 月頃に学校等からの要望を集計し、建築技術職員を中心に現地調査を行い、その施行方法を検討し、施工時期は消防設備、消火栓ポンプ修繕など「建築基準法等の法定点検での指摘があったもの」、フェンスや遊具の修繕など「児童、生徒、教職員の安全が脅かされるもの」給水管修繕など「ライフライン等施設維持に大きく影響を与えるもの」、サッシや蛍光灯修繕など「授業等学習環境に支障があるもの」を優先的に予算計上し実施している。

問 各施設から出された修繕等の予算要望の件数、内訳、その実施はどうか。

答 主に雨漏り、漏水など通常の使用に支障のある緊急修繕や塗装の剥がれなど機能に支障はないが予防保全として必要なもの、施設の機能向上を図りたいものなどの要望がある。昨年度の件数は、幼稚園の全体要望 82 件に対し 57 件実施、小中学校の全体要望 262 件に対し 127 件実施し、それぞれ実施率は 69.5% と 48.5% である。

※その他に「幼児教育・保育無償化」制度実施への対応についても取り上げ質しました。



日本共産党袋井市議会ニュース 発行 2019. 6. 21

高橋美博 大谷 2 4 5 ☎ 48-6100

浅田二郎 浅羽 2 5 2 8-1 ☎ 23-2272